

温故知新

ふる 故きを温ねて
たず 新しきを知る

市制施行40周年として今、新たな『のぼりべつ』を創造する

昭和45年8月1日、わたしたちのふるさと『登別』は、『町』から『市』に、そして平成22年8月1日、登別市は市制施行から40年の節目の年を迎えます。今号では『登別市』の誕生から、これまでの40年の歩みを振り返るとともに、市民の皆さんと創り上げていく新しい『のぼりべつ』についてお伝えします。



昭和45年

8月1日
午前9時

中央公民館（現市役所第2庁舎）に集まった議会議員や各委員会委員、職員が見守る中、市長が『町の名称を市に改める条例』を決裁・署名しました。

その後、一同は正面玄関に場所を移し、市長が『登別市役所』と刻まれた福島産の浮金石の門標を除幕。この瞬間、わたしたちのふるさと『のぼりべつ』は、全国で570番目、道内では30番目の市として、未来へ向かい新たなスタートを切りました。

8月28日

には『市制施行記

念パレード』が行われました。パレードは、『第7回登別地獄まつり』が行われている登別温泉地区を皮切りに、登別地区、鷺別地区、幌別地区の順に、市内一円を巡りました。沿道は、悲願であった市制の実現を祝う市民で埋め尽くされ、パレードが通過すると大きな歓声が上がりました。パレードの後には、幌別中学校の体育館で『記念式典』が行われるなど、この日は、市制施行の喜び一色の1日となりました。